

Teacher Qualifications and First-Grade Achievement

報告者 メリーランド大学助教授 ロバート・クロニンガー

生徒の学力達成の要因を分析するにあたって、学校、教師、生徒のバックグラウンドの要因のうちの教師の効果に着目したクロニンガー教授らの研究グループによる研究は、23,000人の子どもの幼稚園時(1998-1999年)と小学校時(2002年)を対象に、ハイラーキカル・リニア・モデル(HLM)を用いて、教師の資格と学力達成の関係を分析している。

教師の資格と生徒の学力との関係を分析したこれまでの研究では、90年代後半以降、中等教育段階において、特に自然科学・数学の分野において教師の学歴や資格と生徒の学力との間に相関があることが述べられてきた(Goldhaber and Brewer, 1997, 1998, 2000など)。しかし、初頭教育段階におけるこのような研究の例は少なく、少ない研究のうちほとんどは明確な方向性が示されず、または逆にマイナスの効果が出ているというものであった(Rowan, Correnti and Miller, 2002など)。また、教師個人ではなく、学校レベルでの効果に関する研究も中等教育段階に関しては行われているが、初等教育段階に関しては行われてこなかった。

クロニンガー教授らの研究グループは、生徒の学力に対する要因を3つのカテゴリー(学校の特徴・教師の特徴・生徒の特徴)にわけ、それぞれに8つ程度の変数を設けてHLMによる分析を行っている。

分析の結果、①中等教育に関する先行研究の結果と同様に、教師の学歴や資格を細かく規定すると(学位のタイプなど)生徒の学力との相関が現れる。②算数よりも読み書きにおいて効果は大きく現れている。③コースワークの効果は、読み書き・算数ともに学校レベルでプラスとなっている。これは、力量の高い教師がそうでない教師を学校レベルでサポートしていることのためであると解釈できる。④しかし、修士卒以上の高学歴教師の算数の成績に対する効果はむしろマイナスであり、この結果の解釈は非常に難しい。ということが明らかになった。

本研究には、研究対象となっている教師一人辺りの生徒の数が4人という少なさであることや、生徒の学力を決定するさらに複雑なプロセスが分析できない、また資格の有無によって教師がどのように異なるのかという解釈の問題などの課題もある。しかし、本研究によって、教師の単なる資格の有無というより、資格の内容が生徒の学力に対して説明力をもつということや、教師の資格についての長期的かつ構造的な研究の必要性などを学ぶことができるのではないだろうか。

(発表論文は、基礎学力研究開発センターより発行予定)